

PORT SAPIE

ぽるとえ

函館大学広報誌Vol.10●発行／函館大学広報誌編集事務局

1999 DEC.
Vol.10



旧函館市公会堂

●特集

二十一世紀への道標

函館大学はかく変わる

●就職概況

平成11年度就職概況と新年度の展望

就職内定者座談会「就職戦線、私はこう勝ち抜いた」

●国際交流

留学生・帰国学生インタビュー

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 土田秀雄
作曲 館野信平

一、親潮速き海峡を とどろと寄する荒波も
乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
真理の海に棹させば 黙示ひらけて人の世の
まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

二、雄並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
尽きせぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
恵み預ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
樂園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

三、狭霧晴れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
思案の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
道をひとすじに進まん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

3月までの主な日程

1月16日	冬期休業終了
1月17日	後期授業再開
1月22日	交換留学生オリエンテーション
1月31日	卒業論文提出締切
2月 3日	後期授業終了
2月 4～18日	後期試験
2月21～24日	就職懇談会 札幌会場(23日)・東京会場(23・24日)
3月10～31日	春期休業
3月16日	第31回卒業式(10:00～)

函館大学
広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号
TEL (0138) 57-1181 FAX (0138) 59-4575

特集

二十一世紀への道標 函館大学はかく変わる

二十一世紀を目前にして、
二十一世紀に生きる若者たちへの熱きメッセージ。
そして、函館大学は
二十一世紀にどんな大学像をめざすのか、
河村学長が熱く語りかける。

特別寄稿

「時代が求める人間とは」

東京海上火災保険株式会社取締役会長

河野 俊二

「電脳社会、自分の脳を鍛えよう」

日本銀行函館支店長

函館大学講師

清水 雅志

「二十一世紀の理想の大学像」

——ユートピア的発想——

函館大学学長

河村 博旨

PORT SAPIE 函館大学広報誌 Vol.10

ぽろとさびえ

「ぽろとさびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサビエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



C O N T E N T S

特集

二十一世紀への道標 函館大学はかく変わる 1

時代が求める人間とは

東京海上火災保険株式会社取締役会長 河野 俊二

電脳社会、自分の脳を鍛えよう

日本銀行函館支店長 清水 雅志

二十一世紀の理想の大学像

——ユートピア的発想——

学長 河村 博旨

ようこそ・おかえりなさい

留学生・帰国学生 6

平成十一年度就職概況と新年度の展望

就職内定者座談会 就職戦線、私はこう勝ち抜いた 10

人生の先輩から（財）青森地域社会研究所常務理事 福士 隆三 12

同窓生を訪ねて（株）ツルハ田家店長 小野 晋 12

ゼミナール訪問 13

研究室から 14

著書紹介 15

教職員プロフィール 16

聴講生紹介 18

図書館だより 18

北から南から 出身校紹介 19

函館 A Sketch of Hakodate 20

私の函館散歩、いい店食べ歩き

クラブclose-up ボウリング部 22

「夢のDCIIに参加して」 磯川 友宏（4年） 22

クラブ紹介 ハンドボール部 23

学友会だより 24

公開講座だより 25

教養講座 函館地方検察庁検事 高橋 久志 26

コラム「話題の窓」『不登校といじめの現在』教授 鈴木 正義 26

エッセイ 心つれづれ 学長 河村 博旨 27

地元企業を訪問 大槻食材株式会社 28

野又学園プロフィール

函館ビジネスアカデミー専門学校 29



21世紀への道標

時代が求める人間とは



東京海上火災保険株式会社
取締役会長

河野 俊二

私たちは今二十世紀最後の年を迎えようとしています。今世紀を振り返ると人類の歴史の中でそれまでの時代とは質的に全く異なっていた百年であったと思えます。その特徴を要約すれば、

・自動車の大量生産、航空機の発明、コンピュータの普及など科学技術が飛躍的に発展した

・そしてその成果を世界中の人々が享受し、世界が一つの社会となったというグローバル化の時代が始まった

ということと言えるでしょう。

ライト兄弟が初めて空を飛んだのは一九〇三年のことでしたが、それから百年もたないうちに年間四億人以上が旅客機で世界中

を移動し、新たなビジネスチャンスを探したり、観光を楽しんでいます。また、一九九〇年代に入るとパソコンが一般家庭に普及し、インターネットを通じて自宅に居ながら世界中の人々と瞬時に情報のやりとりをすることが可能となりました。

皆さんが今お読みになつておられる広報誌「ぼるとさびえ」の「さびえ」知性」という言葉は人類を意味する「ホモ・サピエンス（知性を持った人）」の語源でもあります。人類を「ホモ・サピエンス」と定義づけたのは十八世紀のスウェーデンの植物学者リンネですが、人類の特徴ともいうべき知性や知識を一部の学者やエリート層が独占するのではなく、あ

らゆる人々が身につけ文字通りの「ホモ・サピエンス」となることが可能となったのが二十世紀ではないでしょうか。

グローバルな人材、自律性・多様性の理解・語学力

来るべき二十一世紀には通信ネットワークが一層整備されてコストも安くなり、個々の人が持つ知識の量が更に増大するとともに政治、経済、文化などのあらゆる面でグローバル化が一層進展していくものと予想されます。日本も一国だけの独自の社会の中に閉じこもってこれまでのように快適に生活することは不可能になってきました。そして世界中をヒト、モノ、カネ、そして情報が自由に動き回る時代になりますと、世界の人々に通用する共通の基盤と



欠になつてくるでしょう。私は日経連の教育特別委員会の委員長を務めています。我が国の今後の大きな課題として「グローバル社会に貢献する人材の育成」と訴えてきました。とりわけ学生の皆さんには、これからの時代、次の三つのことを心がけてほしいと思います。

1. 自律性の確立

マスメディアやインターネットの発達などによって我々が接している情報、知識は「洪水」あるいは「氾濫」と表現されるほど膨大なものとなっています。しかし皆さんに求められている知性とは単に豊富な情報や知識を持つているということではありません。二十一世紀のグローバル社会は新しい出会いや発見に満ちた未知の世界であり、そこでは自分自ら問題を見つけそれに主体的な判断を下して解決策を考え出し、更にそれを実行していく能力が重要となってきます。そのためには、時間にゆとりがある学生時代に歴史・哲学などの古典に親しみ幅広い教養や倫理観を身につけるとともに、物事を論理的に考える習慣を養ってもらいたいと思います。

2. 多様性の理解と尊重

日本人は従来ややもすれば同質性や均質性を重視して、同じ価値観の集団の中に安住してしまつ傾向がありました。しかしこ



れからのグローバル社会では価値観や文化が我々日本人とは全く異なる人々と一緒に働き、共生していくことが必要となつてきます。自分の考え方や流儀に固執することなく多様な価値観を理解し認め合う柔軟な感受性と思慮力を身につけて下さい。

3. 語学力の養成

言うまでもないことですが、グローバル社会において世界の人々

とコミュニケーションを図っていく上で語学力、とりわけ英語力が不可欠です。しかしながら日本の現状をみると将来に不安な気持ちを抱かざるを得ません。

たとえばTOEFLのテストでは日本人受験者の平均点は二百二十一カ国中二百五位、アジアでは最下位となっています。またあるインターネットでシンガポールのリー・クアンユー上級相は「イ

電脳社会、自分の脳を鍛えよう



日本銀行函館支店長
函館大学講師

清水 雅志

いよいよ二〇〇〇年です。あと二年で二十一世紀です。「ミレニアム」という少し前まであまり耳慣れなかった言葉がすっかり定着しました。一千円札も発行されます。二〇〇〇年は、イエス・キリストの誕生を紀元元年とする「西暦」で、たまたま区切

りのよい年に過ぎません。イスラム暦の人々にとっては特別の意味合いなどない年なのでしょう。しかし、皆が、毎年正月に、新たな年を迎えて、新たな決意をして、気持ちを入れ替えるように、こうした「節目」の時に、自分たちの生きている、またこれから生き

ようとしている時代についての認識のようなものに思いを巡らせるのも悪いものではありません。

二十世紀は「戦争の世紀」などと言われました。また、共産主義という一つのユートピア思想が、多くの人類を巻き込んで壮大な実験を敢行し、夢破れて終息した世紀でもありました。この間、科学技術は、戦争遂行というあまり有難くない強力なユーザの支援もあって、人類史上例のない加速で進歩、発展しました。望むらくは、来るべき二十一世紀は、科学技術の平和利用に徹した世紀となつてほしいものです。

コンピュータの効用「効率化」「情報収集」

二十一世紀の社会を形作る重要なファクターが高度化した情報通信技術であることに異論はない



でしょう。世界中の多くの人々の年末年始休暇を返上させたコンピュータ二〇〇〇年問題の原因が高価なメモリーの節約であったこと、そしてそれがついてこの間の出来事であったことを思い起こすだけでも、この分野での進歩のスピードがわかるというものです。情報処理能力の飛躍的向上と各端末をネットワーク化する通信システムの高度化、そしてそれらの低コスト化が、私たちの生活に及ぼす効用は計り知れないものがあ

て、大きい将来の問題は回避すること。これは、個人も企業も、国家にも、往々にしてあり得る事例です。人間の一つの特性です。トランプのババ抜きゲームを連想する人もいます。

①人口も爆発的増加、②食糧・エネルギーの危機、③環境の汚染・破壊。この三つの問題——トリレンマー——、放置されたも同然



二〇〇〇年一月一日——二十世紀最後の年の始まりです。二〇〇〇年問題」と言ってコンピュータの誤作動の混乱が予想され、航空機の国際線の一部は運航を停止（運休）。

あるいは十二月三十一日、一月一日と年末年始に特別出勤をする会社も多い由。

高度情報化時代の欠陥・弱点を露呈する珍現象です。目前の処理に追われ、安価なコストに迫られ

の人類社会です。弱肉強食の原理現象は着実に進行し、アマゾンの森林も次々に伐採され、石油は海底油田まで掘り尽くされそうな現状です。

地球上に緑豊かな森や林は失われ、砂漠化も着実に進み、大気汚染も進行し、深刻化し続けています。飢饉に苦しみ、民族の対立や宗教の紛争は絶えることなく続き、難民として苦しむ人も決して減少しません。

高度情報化社会も、ハイテク、バイオの高度な技術も、所詮は、軍事大国と富利資本大国の一層の強化に悪用されているのみ。と極言せざるを得ない時代に突入する。これが二十一世紀の特徴、特色の一面かも知れません。

南北の問題の南北の区別、先進国、後進国という区別の先進と後進。先に進歩している国とは、国事力と経済力とが進んで先行しているのみとも言えるのかも知れません。戦争に強いこと、お金儲けが上手で強いこと。この二つの面で強大であることをもって先進国と呼称していると言ったべきかも知れません。イラクを攻撃する時のミサイル攻撃の精度の高い鮮やかな中のテレビ放送は、鮮明に残る記憶です。北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）から発射されたミ



ります。ひよつとすると、私たちの思考形態や感受性にも様々な影響を及ぼすのではないのでしょうか。

その効用を私なりに整理しますと、一つは「効率化」です。効率化は経済活動を含め、日常の社会生活全般に及びます。私の関係する金融の世界でも、インターネットバンキングの普及が展望されています。一切店舗を持たない金融機関が出現します。会社に、自宅に「居ながらにして」金融取引ができます。更に、移動体端末、モバイルの普及で、会社とか自宅といった特定の場所、空間もある面で無意味化することになります。海外との取引とその資金決済もインターネットで可能です。国境の無意味化です。また、電子マネーの実用化で、「お金」という概念も大きく変容するかも知れません。

もう一つの効用は、私たちの知的活動における「情報収集能力」の飛躍的向上です。必要な情報は、世界のどこにいても、世界のどこからでも、端末操作一つで入手することが可能となります。

子供の頃、時間や空間を瞬時に移動できたらどんなに楽しいだろう、と空想しましたが、タイムマシンはともかく、情報通信技術は、電脳空間を媒介として、実質的に、瞬時に空間を移動するのと同様の効用を私たちにもたら

してくれるのです。

いつの時代も求められる「判断力」「創造力」

私たちは、このような情報通信技術の効用、恩恵を最大限享受すればよいでしょう。しかし、こうした便利な社会に落とし穴はないのでしょうか。あなたは、効率化によって浮いた時間を何に活用していますか。膨大な洪水のような情報の渦の中に身を置いて、友人と同じ情報を共有することで、安心していませんか。自分が知識豊富で博識な人間になったと錯覚していませんか。

当たり前のことも知れませんが、大切なのは、溢れる情報も、それを提供してくれる技術も、所詮私たちに与った道具の一つに過ぎない、という認識ではないでしょうか。大切なのは、情報を選択する眼を養うこと、不要な情報を遮断する勇気を持つことです。無批判的な情報の摂取は、人間精神の情報への隷属を意味します。気付かないうちに、世の中のそこかしこに潜んでいる悪意の知恵者のマインドコントロール下に置かれてしまうかも知れません。

人の判断力や創造力は、常日頃から脳を活性化させることによって初めて養えるものです。自分の脳をしっかりと鍛えよう、という

訳です。脳の鍛錬法は、芸術、スポーツ、人との会話等多様でしょうが、やはり活字に親しむことが大切です。二十才のあなたが八十才まで毎週一冊の本（コミック本は除く）を読むとしても、三千冊、たった三千冊の本しか読めないのです。限られた時間を有効活用し、自分の中に広がり、と深みのある「電脳空間」を構築しましょう。そして、内と外なる電脳空間を有機的に結び付け、豊かな個人とそれに支えられた多様な価値観を受容する活力ある二十一世紀の社会を築いていって下さい。そうすれば、二十一世紀前半に迎える私たちの老後も安泰なものとなるはずです。



二十一世紀の理想の大学像

—— ユートピア的発想 ——

函館大学学長 河村博旨



サイル（テポドン）すら、把握できず、防衛もできそうにない我々の日本国の自衛力・防衛力のようです。

経済活動の中核機能を果たす金融の自由化、国際化、金融ビッグ・バンと賑やかなマスコミの報道も、つい一、三年前のことです。バブルの崩壊は谷底に到達し、拓銀は倒産して、活力ある部分は北洋銀行に吸収される。山一証券はメリル・リンチに買収されて名称も変わっている。国内の大銀行も次々に海外進出を停止しないし引き上げる。日産自動車という日本を代表する巨大企業も外国資本の系列化に組み込まれる。マツダも、いずも、この類型に入る先鋒格。

グローバルスタンダード（地球規模の基準）とは、先進国の資本の論理に適合する基準と言えそうです。弱小国や後進国は、この基準の決定に参加することなく、唯々諸々として服従隷従を強制されるような国際社会と言えそうです。

アメリカ合衆国の最後の州（五十一番目の州）にでも組み入れられていれば、二億五千万人の人口に対して、一億二千万万人の人口の日本は、大統領選挙を左右する強大な政治力を発揮することも可能である。こういう仮想的な主張を想起する人もいる昨今の日本社会かも知れません。

しかし、諦めることなく、祖先や先人たちの夢や栄光のために、未来永劫に続く子孫に当たる人々の幸福のためにも、努力せざるを得ません。その夢や理想の実現に生涯を捧げる有為有能な人材を多数育成し続ける。そして、世界の軍事力、経済力、政治力の集中する組織機構の中核を支配する人材とする。

そして人類のユートピア社会の実現を目指して、軍事力、経済力、政治力を善用させる。こういう人材を多数育成し、輩出し続ける組織体としての大学。これがユートピア物語で終わらせたくない理想であり、目標であるかと存じます。



**将来は、日本の友達と
ビジネスの場で会いたい。**

オーストラリア・バラット大学から留学

エリン・ルース・オロツクリン (20歳)

私は、中学生の頃から日本語を勉強してきました。日本へ来るのが夢でした。ですから、日本語をもっと勉強して、将来日本語の能力を生かした仕事を

したいと思っています。それと、バラット大学でもマーケティングの勉強に興味があったので、函館大学でもマーケティングの勉強を続けたいですね。先生方も学生たちも、とても親しみやすく楽しいです。函館では、食べ物がおいしくて、いろいろな食べ物に挑戦しています。日本の文化は、まず食べ物から(笑)。日本に来ての楽しみは、雪を見ること。そして、たくさんの方達を作ること。いろいろな国に行つて、世界中に友達の輪を広げるのが夢です。



**不安もあったけど、今は楽しい。
将来は日本で働きたい。**

ハワイ・パシフィック大学から留学

アレクサンダー・ウォーレンバーク (22歳)

海外姉妹校からの留学生

日本には以前から興味があったので、大学で日本語を勉強していました。そして、一年前に日本へ旅行に来て、留学してみたい、日本で暮らしてみたいと思っていました。今回、函館大学に留学できてとてもラッキーです。不安はありましたが、函館大学の先生たちにお会

いし、皆さんやさしい人ばかりなので安心しました。今は日本語の授業が中心ですが、これ以外に会社法、経済、労働管理などの勉強をしたいと思っています。この留学は一年間ですが、帰国後ハワイの大学を卒業したら、また日本に来て大学院に進みたいと思っています。そして将来は、日本で働きたいと思っています。貿易の仕事など、国際ビジネスにこの留学の体験を生かしたいですね。



海外留学からの帰国学生

河瀬 久雄 (三年・帯広三条高校出身)

留学先 オーストラリア・ニューカッスル大学
**好きな英語を休んで学んだ1年
英語教師になるのが今の目標です**



英語の勉強を本格的にしたいと思い、海外留学を希望しました。でも、現地の先生たちのオーストラリア英語は、最初聞き取れませんでした(笑)。一年間海外で学び、その間に「英語教師になる」という意志が固まりました。いま帰国して、その希望を叶えられるよう、しっかりと勉強しています。ニューカッスル大学で、様々な国の人と話すことができ、日本人の固定概念に縛られていないと痛感しました。授業もプレゼンテーションとディス

カッション形式で行われ、日本にはない形。しっかりと発言することの大切さを知りました。忘れられない思い出は、行つて二ヶ月目でニューカッスルからシドニー、メルボルンへ一人旅したことでした。



高橋 勇樹

(四年・岩手県高田高校出身)

留学先 オーストラリア・ニューカッスル大学
**卒業後は家業の家具屋を継ぎ
将来は海外と商取引をしたい**



オーストラリアでは英語の他に、マーケティングとコンピュータの講義を受講しました。実は実家が家具屋をやっている、卒業後は家業を継ぎます。将来は、アンティーク家具をビジネスとして扱うのが夢なので、そのために英語とコンピュータをしっかりと学ぼうと思いました。向こうの冬休みの間、好きなアンティーク家具とビートルズの国を見たくて、一ヶ月半ロンドンで過ごしました。忘れられない思い出です。この留学を、自分の夢の実現につなげていきたいと思っています。

木村 豊

(四年・高知明徳義塾高校出身)

留学先 オーストラリア・バラット大学
**海外留学はとてもラッキー
留学中に就職が決まりました**



海外生活を体験し、英語を身につけたいと思い留学しました。オーストラリアでは、半年間ホームステイし、半年間は大学の寮で過ごしました。大学では英語の他、アジアの講義を選択しました。日本は経済的には進んでいるが、経営・市場的には閉鎖的だと見られているように感じました。留学中にオーストラリアに来ていた日本企業の人と知り合い、その企業に就職することになりました。僕の人生において、この留学はとても大きなラッキーを与えてくれました。

飯塚 晋司

(四年・東京正則学園高校出身)

留学先 オーストラリア・バラット大学
**外国という環境で
自分を試したかった**



僕は二年生の秋から二年間、留学していました。留学の間、動機は、外国という違った環境で自分を試してみたいと

思ってからです。一年間の留学で、いろんな意味で自分が変わったと思います。特に、それまであまり人と話すのが得意ではなかったのですが、今では誰とでも抵抗なく話ができるようになり、これは大きなプラスだと思っています。オーストラリアの大学生は、自分たちは学んでいるんだ、という意識が強く、とにかく勉強しています。僕にとっても、すごく刺激になりました。

エマ・キャサリン・カールソン (21歳)

オーストラリア・ニューカッスル大学から留学

弓道をやってます。

日本の伝統文化と現代的な文化を体験したい。



ニューカッスル大学で、日本語と日本語の音声学を勉強しています。それで、本当の日本語に触れたいと思います。函館大学への留学を希望しました。函館は、やっぱり夜景が有名で、とてもきれいな街というイメージがあります。

した。実際に海も山も、とてもきれいな街で気に入っています。函館大学の印象は、コンピュータの設備がとても整っているのは驚きました。日本に来たらやってみたかった弓道も、始めました。茶道もやってみたいし、日本の伝統的な文化と、現代的な文化をさまざまな形で経験してみたいですね。将来は、日本語の教師になることを希望しています。

ホープ・マリー・カールソン (21歳)

オーストラリア・ニューカッスル大学から留学

**双子の姉妹で函館へ
将来は日本語の教師になります。**



エマとは双子で、私が妹です。私もニューカッスル大学で日本語を勉強していました。日本語を深く勉強するために、日本で暮らしてみたいです。函館大学では、日本語の他に日本の

歴史も勉強したいと思っています。函館大学は設備も充実していますし、とても清潔感があると思います。学生たちも、みんなオシャレで素敵ですね。将来は、オーストラリアで日本語の教師になろうと思っています。日本語を教えるだけでなく、日本の文化を多くの人に伝えていきたいです。函館でたくさん友達を作り、いつまでも大切な友達でいたいと思っています。

就職概況と

新年度の展望



就職部長・教授
大江田 清志

―正念場をむかえた平成十一年度就職戦線―

景気回復の足取りが鈍く、相次ぐ企業のリストラの影響を受けて、平成十一年度の就職戦線はきわめて厳しい様相を呈しています。十一月十日をめどに公表される予定の文部・労働両省による来春卒業予定学生の就職内定率調査の第一次集計結果は、超氷河期と形容される前年に増して厳しいものになる見込みです。

就職戦線は、これから正念場の終盤に入ります。本学では、「就職実績のよい函館大学」のブランドを維持するためにも、教職員一体となってこの難局に取り組む学生を支援します。

足取り鈍い景気回復

輸出や生産面に持ち直しの動きがみられ、「わが国の景気は下げ止まっている」といわれますが、設備投資をはじめとする民間需要の自律的回復のはっきりとした動きは、依然みられません。

最終需要動向をみても、個人消費は、緩やかな回復をみせていますが、厳しい雇用・所得環境のもとで収入が低迷していることなどから、全体として回復感に乏しい

状態が続いています。このことは、百貨店やスーパーマーケット業界にみられる収益の落ち込み・停滞などにあらわれています。住宅建設は、マンションの着工の増加などにより前年を上回る水準で推移していますが、このところ頭打ちとなっています。

日本経済は、懸命の景気浮揚策にもかかわらず、政府による当初経済見通しを達成できるかどうかの瀬戸際にあるといえます。

リストラによる企業業績の回復

企業短期経済観測調査による業況判断では、依然として業況が「悪い」が「良い」を上回っていますが、企業収益は、総じて改善基調にあるといえます。しかしながら、企業の設備・雇用の過剰感根強く、需要に供給を合わせるといういわゆるダウンサイジング型の経営が強く意識され、積極的な企業行動につながるまでには至

らない現況にあります。情報・通信産業にみられる成長持続企業は、きわめて限定的といわざるを得ません。

このような経済や企業経営の情勢を反映し、雇用情勢は、戦後最悪の状況からなお脱しきれていません。

新規採用抑制の逆風

直近の労働力調査（8月実施）による完全失業者数は320万人、完全失業率は4.7%の高率にあります。日銀「短観」の雇用人員判断Dでは、「過剰」―「不足」がプラス20で、人員余剰とする企業の判断は、依然、高い水準になっています。

企業の本年度採用内定者数は、前年実績から17.8%減少していることを、日本経済新聞社の二〇〇〇年度新卒採用内定調査は報じています。大量採用企業のなかでも、家電やパソコン、損保、住宅、自動車など幅広い業種で採用の抑制がみられます。

景気低迷の長期化から、ほとんどの企業がリストラによる体質強化策を講じています。企業の人員削減は、新規採用の抑制・絞り込みをもたらし、就職戦線に逆風を送り込んでいます。

大学の就職優位性

苦境を強いられる就職戦線では

平成十二年度の就職展望

今後の経済情勢について、99年の4～6月期に景気回復の転換点である「谷」をむかえ、回復局面に入ったという見方が強まってきました（10/24日経）。しかしながら、民間需要の速やかな自律的回復は期待しにくく、不透明な世界経済の動向と併せ、景気が本格的な回復軌道に至っているとはいえない情勢にあります。

採用・就職活動の展望

平成十二年度の就職戦線は、「採用・就職活動早期化」が定着し、インターネットによる企業アプローチ（エントリー）が一般化する見込みです。また、初期面接段階では、ディスカッションな

どを取り入れた集団面接法式の採用が年々増加する傾向にあります。採用・就職活動は、概ね別図「二〇〇〇年就職活動スケジュール」の内容に準じて進行するものと想定されます。

問われるのは三年間の生きざまと職業観

採用選考の場では、一般教養、専門性、判断・洞察力、自己発見性、人間的な徳・関係性などの修得度（人間形成度）が問われるといえます。すなわち、大学での三年間の生きざまが問われるのです。同時に、自らの職業観や企業観をもつことが求められます。

一・二年生は、特にこの点を理解し、当たり前のことを当たり前のこととして、日々精進することが大事です。

求められる自己表現力

魅力的な自己形成をはかり、自らの職業観を確立できても、それを対人的に自己表現し、その有用性を訴求する能力がないと、採用内定の獲得にまで至ることはできません。

自己表現・訴求力の発揮が必要な場面は、個人や集団面接場面だけでなく、ハガキによる資料請求、履歴書やエントリーシートの作

■2000年就職活動スケジュール例

（日経「就職手帖より」）

	就職戦線の流れ	こうして乗り切ろう！		
		業界・企業を知る編	自分を知る編	スキル編
9月		サマーインターシップに挑戦 4年生の先輩から就職活動の情報を収集 経済情報の載っている新聞・雑誌の購読開始		筆記試験対策の勉強開始 TOEIC、パソコンなどの資格取得
10月	大学での就職ガイダンス 就職情報会社のインターネットサイトに登録 資料請求・メールエントリー開始	新聞や雑誌インターネットから会社の情報を収集	自己分析	
11月		業界・企業の研究	自己分析と業界・企業から志望動機をまとめる	筆記試験の対策はほぼ終えておく
12月	会社案内が届き始める	就職ノートを作る		
2000年1月	TV局技術系・アナウンサー試験開始	志望する会社の店舗や支店、商品をチェック		
2月	一部会社の説明会スタート OB・OG訪問開始 外資系スプリングジョブ・インターンなど実施	OB・OGに連絡をとって訪ねる		
3月	エントリーシート提出	自己PRと整合性のある志望書、志望動機、志望企業を絞り込む		どんな面接があるか情報収集
4月	OB・OG訪問ピーク 会社説明会、面接などピーク	体調を整え、情報を収集しながら説明会や面接へ		筆記試験の復習 面接対策・話し方・態度の見直し
5月	一部会社では内定も	早ければ内定1社目ゲット	●うまくいかない場合には、自己PRや志望動機を見直して今後の進め方を検討	
6月		●内定がとれなければ、通年採用や秋採用に向けて仕切り直し		

早くも来年度の就職戦線に向けて

「第二回就職ガイダンス」開催

十月四日、三年生を対象とした「第一回就職ガイダンス」を開催し、早くも来年度の就職戦線に向け、大学側の就職指導が本格化していきます。

■ガイダンスに参加して

●根本 尚史くん

（三年・帯広北高校出身）
故郷の金融機関を志望
故郷の発展に貢献したい
就職に関しては、二年の終わりに頃から気にし始めました。一応、金融を志望しているのですが、新聞やビジネス書を読んだりするようになってきました。具体的には、資料請求したりするのはこれからですが、地元・帯広の金融機関への就職を希望しています。大学の先輩も就職しているところですが、企業選びは、やはり安定性を重視します。自分は、人とうまくコミュニケーションをとれる方だと思っています。その点をアピールしたいと思っています。

●亀谷 聡美さん

（三年・函館西高校出身）
通関士の資格を取得し
貿易・運輸業界で働きたい
女子の就職状況は厳しいと聞いて、就職活動は早くから始めていました。が、今日の話をすると自分自身で動かなければと思っています。私は、通関士の資格を取って、運輸・貿易の仕事をするのが希望。そのため、東京方面の企業を受けるつもりです。もし、希望通り就職できても、働きながら勉強を続け、さらに上をめざして挑戦したいと思っています。そして、女子でもしっかりと企業の戦力となるよう頑張りたいと思っています。

●小野寺 亜由さん
（三年・函館西高校出身）
会計の勉強を仕事につなげたい
資格取得にも挑戦
最近、資料請求をはじめ、いろいろな活動が、ガイダンスを受けいよいよ、という気分



太田なつみ
(函館大学付属柏稜高出身)

——後輩へのアドバイスを
太田●私の場合、地元での就職が第一条件でしたが、友達を見ていて、希望業種を一つにしぼりこんじやうと、その業種で就職できなくなった場合、もう就職自体をあきらめてしまう気分になるので、希望は柔軟にしておいた方がよいと思いました。



特集

就職
内定者
座談会

就職戦線、私はこう勝ち抜いた

平成11年度の就職戦線は未曾有の激戦となりましたが、そのような厳しい環境の中でも立派に内定を獲得した学生が、本学にはたくさんおられます。そこで、就職戦線を勝ち抜いた四人の学生から、自分たちの就職活動の経緯や後輩たちへのアドバイスを語ってもらいました。三年生たちも、まもなく本格的に就職活動が始まります。先輩たちに続いて、厳しい就職戦線を勝ち抜くよう努力してください。

■出席者

- 千々波一郎 (千葉明德高校出身) ジャスコ(株) 内定
- 水島 継介 (函館西高校出身) (株)ラルズ 内定
- 佐藤 直之 (白樺学園高校出身) スターゼン(株) 内定
- 太田なつみ (函館大学付属柏稜高校出身) 函館信用金庫 内定
- 新岡 裕美 (函館白百合学園高校出身) 日本マクドナルド(株) 内定
- 進行 新関喜美男 (就職課長)



千々波一郎
(千葉明德高出身)

——まず、それぞれの内定先の企業紹介と、内定を得るまでの苦労を聞かせてください。
千々波●内定先はジャスコ(株)、スーパーマーケットです。本社は千葉にあり、全国に店舗展開し、現在成長している企業です。苦勞というか、実家が東京なので、首都圏での就職活動が主でした。ジャスコの場合は、個人面接が一回一時間半くらいあり、それがきつかったですね。
新岡●私は日本マクドナルド



新岡裕美
(函館白百合学園高出身)

(株)に内定をもらいました。外食産業ランキングナンバー1ということで、マクドナルドを志望しました。自分で気を付けたことは、大勢の受験者の中で埋没しないよう、自分をアピールしようとしたことです。
佐藤●私は、スターゼン(株)という食肉卸の企業です。食肉だけでなく、これからは食肉を中

心としたトータルフーズの企業をめざしていて、そこに将来性を感じました。志望のいちばんの動機は、オーストラリアやアメリカに自社の牧場を持つていて、そこで働くチャンスがあるということです。私は高校時代にアメリカに留学して、でたらまたアメリカに行つて、働いてみたいと思っています。
水島●私が内定をいただいた(株)ラルズは、食品・衣料品を中心とした総合小売業で、特に食品では一物三価などユニークな商法で知られています。小売業では北海道一の売り上げを誇る



新関喜美男 (就職課長)

企業です。実は、函大主催の業界研究会でラルズと接触し、その後はゼミの先生の後押しもあって、トントン拍子で決まりました。
太田●私は函館信用金庫から内定をいただきました。私の家も函館信用金庫を利用して、子供の頃から親しみのある企業でした。地域に密着し、地域の人たちに親しみのあるところが志望動機です。苦勞した点は、地元企業は採用時期が遅く、また情報も遅い。友達が次々と内定をもっている中、地元志向の私は焦りを感じました。
——就職課でも学生に正確な情報を提供するために努力しているのですが、地元企業の場合、採用計画がはつきりしないので、なかなか情報が出てこないんですね。では次に、資料請求した時期や会社数を教えてください。
太田●私はあくまでも、地元・函館での就職希望でした。でも地元企業の採用がなかったら困るので、二年生の二月頃から道外企業へ資料請求を始めました。30社くらいに資料請求し、うち回収できたのは15社くらいでした。



佐藤直之
(白樺学園高出身)

千々波●私の場合、やりたい業種を決めていたので、業種をしぼりこんだほうが企業研究も深くなり、面接対策もできると思っています。
——やりたい業種につけるのがいちばんいいことですが、そうならない場合の方が多い。千々波さんのように、一つに絞り込んで希望通りになったというのは数少ない例です。
佐藤●私は、人事担当者をよく見ろ、と言いたいですね。資料だけでは会社のことは分かりません。だから、会社の代表となっている人事担当者の話や、その人の印象からどんな会社かを判断するのが大事だと思います。
新岡●私の場合は、外食産業の他にもいくつか会社を受けたのですが、やっぱり自分がやりたいのはこれだつて思つて、それから外食産業一本にしぼりました。三年生の段階では、具体的に業種などをしぼれないと思うので、とにかく資料を見たり、会社説明会などに参加するなどして、行動することが大事だと思います。そのうちに、自分のやりたいことに気つくと思います。



水島継介
(函館西高出身)

水島●ゼミの先生とは、こまめに連絡を取つていた方がよいと思います。それから、いい情報には素早く行動し、チャンスを逃がさないように。
——適性試験・筆記試験・面接での成功のポイントは何ですか。
新岡●適性試験は正直に書かないと、そのあと同じような質問を何回もされるので、食い違つたら大変です。面接では、明るく元気に、心をげました。私は大学で企画した就職合宿セミナーに参加しましたが、これで大勢の前で話す度胸が付き、大変よかつたと思います。東京では、有名大学の学生たちと一緒に面接を受けたりましたが、大学名は関係なくあくまでも個人ですので、みんなも自信を持って臨んでほしいです。
太田●集団面接の時は、答えを何パターンか用意した方がよいと思います。自分の言いたかつたことを、他の人に先に言われてしまふ場合がありますから。
水島●とにかく現実を厳しいことを理解し、早めに準備を開始すること。特に筆記試験対策はしっかりとやること。面接で自分を見せよう前にも、筆記試験で落とされる、何も進まないですから。
佐藤●確かに就職は厳しいと感じました。面接などを受けて、自分では手応えを感じた企業も何社もありましたが、落とされたりしました。何事もそうですが、自分から率先して行動しないと得るものはありません。自分で考え、行動することが大事だと思います。
——それでは最後に、社会へ出るに当たつての抱負を聞かせてください。
新岡●今の時期から、内定者の合宿研修があつて楽しみにしています。マクドナルドの場合は、全員がまず店舗を経験し、目標の一つが店長になることです。私も店長をめざして頑張ります。
水島●最初の三年間で、しっかりと仕事を覚えるように頑張りたいと思います。そして、社員としてラルズの発展に貢献したいと思っています。
太田●自分の生まれ育つた函館の発展に貢献できるよう、しっかりと仕事をしたいと思っています。
佐藤●まずは入社する前に、パソコンをもつと完璧に使えるよう勉強します。それから入社後は、多分営業職になると思うので、商品知識や取引先についても早く覚えたいと思います。
千々波●きつと同期入社の人がたくさんいると思うので、他の人に負けないように努力します。

人生の先輩から

西瓜を買う学



講師 福士隆三
(財)青森地域社会研究所常務理事

中国に、自国民の思考力と想像力のなさを揶揄するものとして、「西瓜を買う学」という小咄があるという。

「ある店の主人が小僧にこう言った。『門を出て西へ行くと、一つめの橋のところで西瓜を売っているから、そこで、西瓜を二つ買ってこい』。小僧は西へ歩いて行ったが、橋も見当たらない。西瓜を売っている者もない。そこで彼は手ぶらで戻って来て、言った。『東側には西瓜を売るところがあるんだけど、西にはありませんで、西側には西瓜を売るところがあるんだけど、東側には西瓜を売るところがない。』」

これを読み終えた段階で、もとより学生諸君はこう思ったにちがいない。少なくとも成人にならなければ、こんな馬鹿げたことはしない。なにもしない。時間たっぷりである。果たして事に臨んで、状況を応じたこれらの判断が瞬時に求められるというわけである。時間たっぷりである。果たして事に臨んで、状況を応じたこれらの判断が瞬時に求められるというわけである。果たして事に臨んで、状況を応じたこれらの判断が瞬時に求められるというわけである。

うのだ。あなた方が問われるべきは、どれだけの人が次のようなことに思いを馳せることが出来たかなのである。もちろん、小僧の立場にあったとしてもである。

「西側のその店で買ったことの意味があるのか」「西瓜の大きさと品質は」「二個とはいくが、一個しか売ってなかった場合は」「緊急を要するのか、それとも時間をかけてもかまわないのか」……等々。そして実社会にあつては、状況に即したこれらの判断が瞬時に求められるというわけである。時間たっぷりである。果たして事に臨んで、状況を応じたこれらの判断が瞬時に求められるというわけである。

激動の時代だからこそ勉強するにはいい機会だ

金融論ゼミナール 教授 小川弥八郎

日本銀行で金融研究所などに長年勤務した小川先生。「日銀では金融制度、金融政策など、研究畑が長い」そうである。その小川先生の金融論ゼミナールは、最近の金融上の諸問題について、金融システム、価格メカニズムを中心に学習し、金融現象の基本的理解を深めることを目的としています。

ゼミの基本的な運営は、テキストを輪



読し、学生が疑問点を出します。それをゼミの中で討論しあい、先生が助言するというスタイルです。「オーソドックスなやり方ですが、日経新聞を資料にして、その時の時事問題をからめるときもありません」。

現在は特に、金融システム・金融業界が大きく変化しているときです。「それだけに、金融を勉強するにはいい機会なのです。基本的理論をしっかり理解し、現実の動きと対比してみるといいです。金融は用語は難しいけど、理論は明快。でも、その理論と現実が少しズレるところに難しさがあるんです」。

小川ゼミのゼミ生は、毎年十人前後。この日は個人談話で一人ひとりと対話。ゼミ生の板谷忠典くん(四年・函大有斗高校出身)は、公務員または金融志望で就職活動の相談にきていました。「僕は、講義でも先生の授業を受けていて、日銀の金融政策に興味があつて、このゼミに入つたし、卒論もそれにしました。ちょっと難しいテーマだけど、実際に日銀にいた先生から話を聞けるのは、恵まれていると思います。僕一人でも、よく研究室に来て、お話をうかがってます」。撮影している間も先生は、板谷くんの一つ一つの質問に、懇切丁寧に答えていました。

同窓生を訪ねて

株式会社ツルハ
クスリのツルハ田家店

店長 小野 晋さん(23回生)
同期入社では店長第一号

北海道最大のクスリの販売チェーン店「クスリのツルハ」函館田家店の店長・小野さん。小野さんはなんと入社二年目で店長に抜擢されました。「同期入社では、多分いちばん早く店長になったと思います。自分でも入社二年目になるとは驚きでした」。

店長の仕事としては、もちろん一つの店を任されるわけですから、売上管理から店員の労働管理まで幅広い。「最初は、いちばん若い僕が店長となつたわけですから、年上の人の扱いには気を配りましたね。やっぱり、店員に気持ちよく働いてもらうことが大事。そうすると、



小野 晋さん(23回生)

スリのツルハには、小野さん以来、毎年函大生の採用があるよう。「大学時代は自分の時間を有効に使い、その経験や得たものを社会で発揮してほしい」と言います。



函大時代は、上平先生の「商品学ゼミ」で、商品管理などの面で役立っているそう。「いちばん印象に残っているのは、学長の講義で、企業に就職したら安易に辞めてはいけな、と強く言われました。何度か迷ったこと

学生経済ゼミ大会に参加
他校との論戦に挑む

マーケティング論ゼミナール 専任講師 日野 隆生

日野ゼミのテーマは、「生活者、そして社会的ニーズに応える実践哲学がマーケティングであり、その概念に基づいたマーケティング戦略を考察する」こと。その一環として、三年生はこの夏、函館に訪れた観光客にアンケートを実施しました。マーケティングの基本は、まず情報のリサーチからスタート。このアンケート調査は、十二月に行われる日本学生経済ゼミナール大会(インゼミ)で報告し、共同論文にまとめられます。インゼミとは、毎年経済学系学部のある大学から発表希望ゼミを募り、共通するテーマで論戦し合うものです。今年のインゼミ大会は金沢経済大で行われ、日野ゼミは、立命館大・日本福祉大・龍谷大と対戦します。

今回は、「サービス・宿泊施設のバブル期と現在における経営状況の比較」がテーマ。バブル期のデータは、行政側からの資料等を参考にしていますが、現在のデータは、学生がアンケート等歩いて集めたものが論文の中心となっています。

論文を共同で仕上げる経験、他校と論議するための理論武装、それを基に議論



し合う体験は、いい勉強になります。そして、この体験によって、学生たちは間違いなく一回り大きく成長するでしょう。

取材のこの日は、写真のようなゲームの真っ最中、というわけではなく、各自が社長となり、商品の仕入れから販売までをシミュレーションするゲームをしていました。日野先生は「ゼミは、学生が主体となり、各々が問題意識を持ち、活発に討論したりすることから、大学の勉強で一番活気のある楽しい場にした」と言っていました。ゼミを通じ、実践力が育てられ、自信につながるでしょう。

論文名 函館における市街地の拡大



講師 渡辺 英郎

——先生は地理学が専門ですね。

はい。歴史学の人は、こうした調査をあまりしません。地理的な見方をする人は少ないと思います。

この論文は、市街地の広がりと地形的な関係をまとめたものでした。

——市街地の広がりが一目で分かるようなものがなかったのを、地図にまとめてみました。明治期、大正期、第二次大戦後の一九五九年（昭和中期）、七三年（昭和後期）、九三年（平成）の五つに分けて調べてみました。函館は、大正期までは東京以北最大の都市だったんです。

最初、函館山の麓の高台から市街地から形成されていきました。これは、海抜が低い土地は飲料水が得られなかったで、人は住み着けなかったんです。

でも、高台に住めるのは金持ちに限られていました。

庶民は、土地の低いところを求めたんですが、飲料水などの制約があったり、なか伸びず、大正期でも市街地が亀田川を超えることはありませんでした。

——電車が敷かれたのと市街地の拡大は関係ありますか。

電車は、明治末に馬車鉄道ができ、大正二年に函館と湯の川間が開通しました。湯の川はその昔、金持ちたちの別荘地だったんです。でも、電車沿いに市街地が広がったというよりは、あまり関係ないですね。函館は港湾都市だったので、港と駅周辺だけで経済は成り立っていて、住宅地は高台あたりに密集していた。昭和の中期になると市街地が広がりますが、人口はほとんど伸びていません。これは、それ

で高台近辺が非常に高密度で、それがばらけていった現象でしょう。

——この研究を通して、先生が函館を再認識したことは

函館の町を百年のスパンで見ると、庶民の持ち家願望が強かった。昔は、ある程度お金を持っていた人でも、家を持つのは難しい町だったんです。土地がなかったからですね。それが戦後の農地解放や市町村の合併などで、土地が入りやすくなり、持ち家願望を満たしていききました。なにか函館は人口も、経済的にも衰退しているように思われがちですが、市街地が拡大し持ち家が増えているというのは、潜在的な経済力があるということだと思います。これは金融関係者も認めることです。気候的にも住みやすく、たいへん魅力的なまちなんです。

学生たちには、函館の町の成り立ちを知ってもらい、都市の発展・変化の過程を見て、そのエネルギーが都市の中、庶民の中にあるんだということを理解してもらいたいと思っています。

論文名 ユーロと欧州同盟の将来像



助教授 田部井 英夫

——このテーマに取りかかった時期はいつ頃ですか。

一九八七年にパリの社会科学高等研究院の修士課程を終え時点で、母校の立教大学から「欧州統合のゆくえ」と題した前期特別講義の依頼がありました。長い間、パリに暮らし、欧州統合化にとりまなう欧州各国の社会変化を肌身で感じとっていただけに、この研究対象に自然に向かうことができました。講義の準備がこの研究に取り組み始めた直接の契機となっていました。

——先生なりの視点をどこにおきましたか。

私の関心はあくまでも現実社会であり、社会の変化をより観客的に把握することです。大学時代に経済学を学んだ際、理論や概念の解釈から出発しました。今はその反省に基づいて、現実から出発するよう心がけております。このような姿勢はとくに日本では「ジャーナリストチック」

といわれます。私の関心は今生きている「現在」に自分なりの答えを出すことであり、自己の見解により「客観性」を持たせることです。でも一概に「現実」から出発すると言っても、容易なことではありません。

——欧州同盟の発端と問題点を簡単に

欧州同盟の源流を遡れば切りがありません。戦後に絞れば、ヤルタ体制の確立でしょう。ただし、私がとりわけ関心を抱いたのは、ドローラが欧州委員会委員長に就任した後の欧州統合化です。問題点は欧州統合化が「市場のグローバル化」の流れのなかにあることです。「グローバル化」が進むなかで、各国はさまざまな制度化と調整を迫られております。グローバル化への対応が新しい社会経済システムの創造をわれわれに迫っているのです。

著書紹介

『複眼広告論—私的広告論』

著者

教授 赤松 潤

1999年9月発行 函館大学出版会・創成社刊



まず、タイトルに使っている「複眼」という意味は、「広告の送り手と受け手の、両方の視点から複眼と付けましたが、インパクトを与える目的が大きく、あまり深く考えないでください。私的広告論も、個人の広告論だ」という意味です。赤松先生は、広告代理店に三十年近く勤め、主にマーケティングの分野で活

躍してきました。そこで、「とにかく広告の面白さを学生に知ってもらおうと、教科書的に書いたもの」と言います。

実際には九九年後期から、赤松先生の「広告論」等の授業でテキストとして使っているそうです。「学生たちからは、この本に対して直接の反応はないですね。広告業界からは、反響も出ています。僕の理想としては、赤松の講義を聞いて広告が好きなになった、と言ってもらえるのが理想。ですから、この本も、学生が広告に興味を持ってくれるきっかけになってくれればいいんですが。」

この本は、認知心理学をベースにした消費者行動論が主なテーマとなっていますが、「消費者

『日本の経営の進化と国際化』

著者

教授 大江田 清志

1999年3月発行 函館大学・北海道産業開発研究所刊



行動論は最近ようやく認知されてきて、去年はこの函館大学で消費者行動研究会を行いました。私の知人たちが学会仲間が、函館にきたいというので、こうした学会の開催も、函館大学で活発になるというわけです。

赤松先生の既刊本『時間の心理学』1993年10月発行 近代文藝社（2000円）その他、共著あり。



二十年以上の企業経営を持ち、現在、企業経営を研究する立場の大江田先生は、その研究スタンスとして「具体性・実証性・国際性」の三つをあげます。

本書では、そうした日本の経営論のジャンルを、体系的

さて、日本の経営に関しては、最近いろいろな議論が飛び交っていますが、「日本の経営は、経営学の中でも最も人気があるテーマの一つ。それだけに、実に多様な主張・研究方法が試みられ、日

本経営論のジャンルとも言える様相を呈している」と言います。

●大江田先生の既刊本『人材育成型人事』同文館（1989年12月刊）その他、多くの実務者教育テキストを執筆

京都出身の 硬派な哲学教授



●名誉教授 伊藤 結城夫

哲学を担当する伊藤先生は、昭和二十四年に京大に入学。「僕らの世代は、敗戦でそれまでの価値観が変わり、日本はどうなるんだろうって、不安があったんです。だからこそ、みんな新しい価値観を探るために勉強に燃えてたんですね」と言います。

伊藤先生は、京大の前は京都洛陽高校で、一年後輩に映画監督の大島渚氏がいたそう。「大島監督とは、高校時代に同じ文芸部に入っておりまして。でも彼は演劇部にも所属していました。」

京大では文学部に進み、文芸同好会に所属。同期では小松左京氏の他、後に京大助教授になった作家の

故・高橋和己氏らもいたとか。「ギリシャ語の『PAN(牧羊神)』という同人誌を作りまして、同人誌作りと言ふより会話は議論してましたね。僕は、高校・大学の文芸誌・同人誌では、ほとんど書いた記憶がない」と照れ笑いをします。「でも、今の学生ってほとんど議論をしなくなりましたね。時代・社会の動きを自分たちの問題ととらえると、今の社会は、これからの社会は、つて興味が出るし、学問への意欲も湧いてくると思ふんですけど」と、学生たちにはがゆい思いをしているようです。

函大剣道部監督 六段の剣道家



●教授 宮崎 正孝

函大剣道部監督で、自身としても六段の腕前を持つ宮崎先生。「中学・高校では柔道、大学時代は空手をやってました。剣道を始めたのは二十歳を過ぎてから。京都で行われる剣道家の大会には、毎年出場しています。今年の目標は、七段に挑戦すること。」

さて、そんな先生の毎日は、朝六時半に起床し、三十分の散歩、そして二時間の練習。これを三百六十五日欠かさないと云います。「剣道では、常に自分と相手の間や関係が大事。相手に勝つというだけでなく、一対一の精神世界です。そうした剣道の精神が、仏教と結びつき日本文化となったんですね。自他との関係

そして自己だけでなく他者を思う、これはまさに大乘仏教の考え方です。」そして「何より大切なのは、自己規律を課し毎日精進すること。そして、常に自ら行動すること」と言います。

常に前に出る、行動に移すという姿勢は、宮崎先生の中で一貫しているようで、現在函大の夏休み・冬休みには、姉妹校のオーストラリア・ニューカッスル大学、大学院博士課程で勉強しているそう。「オーストラリアにいるときも、生活習慣は変えません。竹刀を持っていて、毎日練習しています。」

海外赴任を2年間 アメリカで新婚生活



●教授 溝田 春夫

登山やスキーが好きという溝田先生は、函大では数少ない自然科学系の先生。担当科目は自然科学概論と化学。「大学院(東京工業大学)時代に、富士山はもちろん北アルプス・南アルプスなど主なる山はほとんど登りましたね。函館大学に来てからも、旭岳縦走などをしましたけど、最近あまり登ってません。去年は久しぶりの登山で、大学時代の友人と利尻岳に登りました。」

さて話は変わり、溝田先生は函大に着任する前、アメリカのニューヨーク州立大学バッファロー校に二年間研究員として赴任していました。「アメリカ行きの話が決まっていたので、結婚式をアメリカでしちゃおうと

だから、結婚生活はアメリカでスタートしました。」ニューヨーク州バッファローはナイアガラの滝に程近く、「夏の暑い日はよく、ナイアガラの滝に夕涼みをしに行つたものでした。カナダへも旅行によく行つたな。一番の思い出は、ニューヨークからカリフォルニアまで、車でアメリカ大陸を横断したことでした。このアメリカ経験を通して「若いうちに、外から日本を見たり、いろんな価値観やものの考え方を持った人々と接するのは貴重な経験になると思います」と、学生たちにも海外経験をすすめます。最近の趣味は、「ゴルフかな」と笑います。

函館を愛する 環境デザイナー



●講師 榎木 博史

商業デザイン論を担当する榎木先生は、自分のデザイン事務所を持つ建築・環境デザイナーで、函館市CI推進委員会などのプロジェクト・メンバーにもなっています。「いいデザインとは、暮らしの中で生きるものだと思ひます。デザインを通して、いろいろな人々の生活のイメージし、考えるようになってほしい。そうすることで、多様な考え方ができるようになると思ひます」と言います。そして「人間や文化の多様性を認めることによって、様々な人とコミュニケーションがとれる」と。最近TVゲームやパソコンなどで、直接他人とコミュニケーションをとるのが苦手になった若者への

忠告です。

さて先生の趣味は「旅行くらいかな」と。娘さんがベルリンで暮らしているということで、ヨーロッパに行くことが多いとか。「特に北欧などの、地方都市が好きですね。自然と歴史が調和したような街並みが。函館も、そうした点では歴史と自然が調和した、素晴らしい街で、僕は本当に函館の街が好き。でも、歴史的な街並みもただ残すだけじゃなく、市民が活用してこそ価値が出ると思う」。そして見せていただいた、榎木先生のスケッチブックには、淡い水彩絵の具に彩られた、ヨーロッパの街並みや函館の街並みが描かれていました。

軟式庭球部監督 昨年初の団体優勝



●教務課長 黒澤 幹生

教務課長とともに函大軟式庭球部の監督を務める黒澤さん。昨年、監督に就任以来、春季大会で初の全道団体優勝に導きました。「学生たちが、胴上げをしてくれて、恥ずかしいやら感激するやらでした」と言います。

実は黒澤さん自身も、函大OB(六回生)で学生時代は軟式庭球部のキャプテン。個人で全道優勝の経験もあります。「個人では優勝者は多数いるんですが、団体優勝は初めて。卒業して二十年以上たつて、念願の団体優勝を経験させてもらいました」。函大を卒業後は、野又学園の法人本部に就職し、社会人としても全道優勝四回の実績を持っています。そして、平成三年

に函館大学へ赴任。「学長をはじめ、学生時代に教わった先生がいますからね、なんか変な気持ち。学生としては、勉強面ではあまり出来のいい学生じゃなかったからな」と笑います。「そんな自分が、親になり監督になつてんだから不思議な気がする。大学生の自分の子供にも、庭球部の学生にも、自分で考え、自分で決める、そして自分で責任とれ、と言つてます。だから、練習も強要しないし、二時間で終わります。あとは、自主練習です。親として、監督として、子供を信用するのが一番大事なこと」と言います。

図書館コンピュータ システム担当者



●図書館係長 遠藤 啓暁

図書館係長の遠藤さんも、昭和四十五年函大を卒業したOB。函大卒業後に学園の法人本部に就職し、函館短大、函館医療保育専門学校の保育科事務長を歴任して、平成五年から函館大学図書館に着任。その理由は、大学図書館でもコンピュータを導入するに当たつて、そのシステムづくりを担当するためです。「その年から、図書の貸出返却をコンピュータで管理するようになり、そして最近完成した蔵書検索システム」の準備に取りかかった「そうす。その完成した蔵書検索システムは、市販のパッケージソフトでは一冊の本を探すのに、すべての蔵書から検索するのにに対し、「そ

れでは検索のスピードが落ちるので、分野ごとに分けた蔵書を、その分野の中だけで検索するように改良しました。だから検索スピードがぐんとアップしたんです」。では、遠藤さんが函大生だった時代は、コンピュータはあつたんですか?と聞くと「当時の函大には、函館でも早くにコンピュータが入りました。その頃、友達何人かとコンピュータを学んでいました。まあ、その頃から興味はあつたんです。現在は、学内のインターネットと図書館のコンピュータシステムを連動させる準備中。九九年中には、そのネットワークも完成するそうです。」

聴講生紹介

函館大学では「地域社会に還元される学術機能（開かれた大学）」を目指し、積極的に大学開放事業を行っています。その中の一つとして、地域の人たちの向学心に応えるべく、広く聴講生も受け入れています。

主婦仲間にも函大の聴講生が。じゃあ私たちも、といっしょにはじめました。

三森 早苗さん
酒井 嘉子さん

家が近所で、普段からお友達という三森さんと酒井さん。お二人は、函館大学の聴講生として、いっしょに中国語の講義を受講して二年目になります。最初に中国語を勉強したいと思ったとき



つかけを聞くと、三森さんは三年前に、共通のお友達とよくいっしょに遊んでいたんです。その中の一人が、函館大学で中国語を聴講していたんです。そんなことから、その人に中国語を少し教わっているうちに、酒井さんといっしょに自分たちも聴講しようかということになって、と答えてくれました。酒井さんは、「私は、九五年に中国へ旅行に行ったんです。その時から、機会があれば中国語を覚えたいなって思っていました。で、函館大学の聴講のことを聞いていい機会だなんて。」



この取材をした日に、三森さんは「私、近々中国へ旅行に行くんです。勉強の成果を試すチャンスですね。発音が難しいので、一言でも通じればいいんですが」と笑います。酒井さんは「私は前に行っていた中国へは行ってません。中国語を勉強してるんだから、まだ行きたいと思ってるんです。」



三森 早苗さん 酒井 嘉子さん

図書館便り

ホームページを開設
インターネットによる
図書検索について



「情報化時代」に対応した図書館としてのコンピュータ化は飛躍的な発展を遂げ、蔵書管理をはじめ、貸出・返却業務等を迅速かつ確実にしました。また、インターネットによる広範な情報の収集も可能になり、自由にアクセスできる環境も整いつつあります。本学でもコンピュータの導入により、様々な場面で大きな成果を上げています。バーコードによる貸出・返却の手続き、図書目録・検索の方法も従来のカード方式からコンピュータ方式に変わり、カードレス・ラブラリーの大学図書館として電子図書館の色彩が濃くなってきました。コンピュータ目録による検索も、端末を用いて必要な情報を簡単に得られ、その情報をプリンターで印刷コピーすることも容易にできます。また、大学図書館、専門図書館などの多くの情報も、インターネットで正確なデータとして広く得ることもできます。さらに、ホームページの開設によりインターネットを使い、最新の情報の提供や学外からの図書検索もできるようになりました。是非、アクセスしてみてください。

私の母校

学校法人希望学園

札幌第一高等学校

尾上 琢真くん（二年）



私の母校、札幌第一高校は、先生と生徒が一つになって歩いている学校、というイメージを強く持っています。先生の熱意と生徒の意欲が、学習面、運動面の両面に表れ、大きな成果を上げています。進学率もコース制と講座制講習を早くから取り入れて急上昇し、その実績も高いです。先生方の熱心な指導が、一人一人の生徒の意欲につながるのだと思います。特に、読書感想文コンクールでの全国レベルの受賞や、運動部の全国大会での活躍はすごいです。今、青春の日々を大きく育ててくれた「わが母校」に声援を送っています。



学校法人希望学園 札幌第一高等学校
札幌市豊平区月寒西1条9丁目10番15号 創立：昭和33年

文武両道を実践 ユニークな講座制講習

「知・情・意・体の調和のとれた全人教育」を理念に、文武両道の校風を持っています。

全国大会出場レベルの実力を持つ運動部が多数あるほか、近年、進学率も大幅にアップ。国公立・難関私立校などに多数の進学者を出しています。

普通科には文理コースと総合進学コースがあり、文理コースは国公立・難関私立校、総合進学コースは私大、短大、専修学校への進学をめざし、二年生からコースが分かれます。

またユニークな講座制講習を実施し、正規の授業の他、早朝や放課後に受験対策講座が開かれ、生徒たちは自由に選択し、目標に向かって努力しています。生徒の自主性を重んじる校風は、学業でもクラブ活動でも、結果となって現れているようです。

私の母校

学校法人荒井学園

高岡向陵高等学校

正武田 真くん（二年）



一人ひとりの目標に応じた きめ細かなコース制が特徴

高岡向陵高校は「健康第一主義」「能力に応じた、個性に適した教育」「国際・情報科に適切な教育」などを教育方針に掲げています。この方針通り、生徒の目標に合わせたきめ細かなコース設定がされています。国公立・難関私立進学をめざす特進コースや、普通コースでも進学と就職を目標とするコースに別れています。また、ネイティブスピーカーによる英会話教育や海外留学が可能な国際コース、コンピュータ教育に力を入れた情報コース、そしてスポーツと進学の両立をめざす体育進学コース。いずれも、各コースに応じて効率的なカリキュラムが組まれています。



学校法人荒井学園 高岡向陵高等学校
高岡市石浜281 創立：昭和37年

私の母校、高岡向陵高校は特進コース、普通コース、体育進学コース、情報コース、国際コースがあります。中でも体育進学コースに力を入れ、ハンドボール、駅伝、陸上、相撲、野球は、常に「全国大会出場」を果たすという伝統があります。その戦績から全国の実力者が集まり、力となっています。寮生活をしながら練習に努力している生徒も、目標に向きながら頑張っています。私はハンドボール部に所属していますが、良き指導者に巡り会い、今日の自分があると思います。また、クラブ活動を通じて進学する生徒も多くおり、これからも函館大学へのレールが敷かれ、長く続いていくことを望んでいます。

函

私の函館散歩

青函連絡船棧橋

教授 片山郁夫



わたくしが初めて北海道を訪れたのは大学受験のときでした。石川さゆりの「津軽海峡冬景色」がヒットするずっと以前のことです。たしか函館に着いたのは未明で、寒い日でした。大勢の乗船客に混じりながら、心細い思いで連絡船を降り降りましたことを覚えていています。

当時飛行機を利用するなど、わたくしにとっては

経済的にも夢の話でした。学生時代だけでなく勤め始めてからも、飛行機が怖かったため、帰省などにはもっぱら国鉄を利用しました。記録をつける必要も趣味もなかったため定かではありませんが、連絡船に乗ったのは数十回でしょう。

自分にとって、帰省のたび(旅)は、そのときどきの日常生活をふり返る機会でもあったようです。怠惰な毎日を悔やむことはもちろん、クラブやゼミでなにがしかのことをやり終えたある種の満足感(自己満足感?)に浸りながらのこともありました。四時間の青函連絡船という空間は、ものを考えるのにちょうどよかったのかもしれない。船の乗り降りが、自分の時間的な区切り目になるだけでなく、気持ちの切り換えをつながしてくれたように思います。

すでに連絡船待合室は取り壊され、連絡通路もわずかしが残っていません。が、いまでも、列車からホームに降り立つと、連絡船乗り場の方へ向かうような錯覚にとらわれることがあります。潮の香りと立ち食いそばの匂いのせいかもしれません。もともと、学生時代に抱いていたような不安感こそもつありませんが。

いらっしゃいませんか、函館へ
A Sketch of Hakodate

館

いい店

食べ歩き

海が見えるレストラン
夏はテラスでオーフスカフェ

タッキーズカフェ

●佐藤 史子(二年・函館白百合学園高校出身)
●内山恵美子(二年・東京御茶屋高校出身)
●木村 菜穂(二年・函館北高校出身)

大きな窓の向こうはすぐ海。天気の良い日は正面に下北半島も見えます。そして夏は、テラスにテーブルを置き、オーフスカフェが楽しめるお店です。三人の女の子とも、デートにはとっておきのお店。特に夜は、漁り火が見えて素敵な雰囲気、と口を揃えます。

メニューは、シーフードをふんだんに使った誰にも食べやすい料理が中心。特にピザがいちばん人気で九〇〇円〜二二〇〇円。



タッキーズカフェ
函館市宇賀洲町6-13(漁火通り沿い)
TEL0138-52-4464
営業時間/11時~17時、
(ディナー18時~23時)
定休日/毎週月曜



円の四割額。ホテルのレストランやパン屋、ケーキ屋で食べたというオナーは、「とにかく自分の手作りを出したい。だからいるなんてどうで壊滅し、デザートまで自分で作る」と言います。ランチは、バスタセツト、ドリアセットからカレーやハヤシライスまで、若い人に好評。またドリンクも、イタリアの赤いオレンジから作るシシリーモスカートジュースやクランベリージュースなど、新しいメニューを次々と取り入れています。ここに来ると、新しいドリンクをいつも新発見できます。料理も、友達といういるオーダーして、みんなで分け合って食べるのが楽しい」と佐藤さん。

夜は雰囲気がかつと変わり、ディナーとともにワインやカクテルを楽しむ、ちょっとした大人の雰囲気になります。そして、夜の海や漁り火がムードを盛り上げます。みんな夜のデートでもこのお店に来るのがかな?

ボウリング部

東日本学生ボウリング選手権大会優勝

平成11年8月17日～20日にかけて行われた「第30回東日本学生ボウリング選手権大会」で、見事、函館大学ボウリング部が優勝しました。

以前から、東北以北ではほとんど負けなしの函大ボウリング部ですが、関東・中部以北の「東日本学生ボウリング選手権大会」で念願の初優勝を飾りました。

昨年の準優勝から
ついに今年初優勝！

「東日本学生ボウリング選手権大会」では、一昨年は五位、昨年は惜しくも準優勝、そして今年初優勝と、着実に実力と実績を上げてきました。

この大会は、団体戦（一チーム五名）で行われ、一人3ゲームずつ投げての総合得点で争われます。これを、予選三回戦、準決勝、決勝と、合計15ゲームを四日間で行うというハードなものです。ですから、一人のミスも他のメンバーでカバーできるし、また、小さなミスの重なりで順位が入れ替わってしまうという、厳しいものです。



●函館大学ボウリング部選手

平田 和宏（3年・東海大学山形高校出身）
秋田 祐一（2年・大橋学園高校出身）
小倉 崇（2年・富山商業高校出身）
加藤 大祐（1年・関東学院大学付属高校出身）
佐々木 健（1年・古川高校出身）
富永 央樹（1年・野崎高校出身）
本田 知宏（1年・金沢伏見高校出身）

でも「この大会では、一人がミスしても、ぜんぜん勢いが落ちなかった。他の大学に、まったく気持ちでは負けていなかったのがよかったのでしょ」と、平田和宏くん（三年・東海大学山形高校出身）は言います。今年は一年生から三年生までの部員十人が、全員高校時代もボウリング選手という、ハイレベルの選手が



揃いました。「来年も、この後輩たちなら優勝は確実に狙える。新入部員もいい選手が来てくれ、毎年優勝を続けてほしい」と語っています。

平成四年の創立以来、ずっと顧問をしている西村淳助教授は、「初優勝は、素直にうれしいですね。でも、まだまだ練習環境が整っていないので、大学側からの支援がもっと欲しいというのが本音です。でも、その中で優勝した選手たちは立派だと思います」。

夢のロビーに出場して

四年 磯川友宏（函館大学付属有斗高校卒）

私は、高校時代マーチングバンドに所属していました。大学に入学してから、米国で行われる世界最大のマーチングバンドコンテスト「DCI（Drum Corps International）」に、三度も出場する機会を得る事が出来ました。この大会は各団体がテーマを決めて、それを演奏と動きでいかに美しく表現出来るかその完成度の高さを評価されます。

DCIは、米国でサマースクールやクラブと並ぶ青少年活動として高い評価を受けているコンテストです。今回私はオーディションの結果、ジャズの部、「ニッシャー」に本拠地を置く「Oodysseus（クロスマン）」に入団する事が出来ました。ここは最も練習時間が長い事で有名です。睡眠時間は二時間位で、あとは練習練習という時も何度かありました。

が、21歳という最後の年に、自分の好きな団体で、大好きなジャズを演奏出来たことが、厳しい練習にも大きな励みとなり頑張ってきたと思います。日本人三名をふくむ百二十余名の仲間と食事、練習、余暇時間と共同生活しながら二ヶ月間のツアーに参加して来ました。各都市に行きつて色々な人々と出会い見聞が広がりました。これからの自分の人生に必ずプラスになる事だと思います。

私が滞在した二ヶ月間、パレードやショーを行っていた各都市を回り最後のフィナーレまでのチームも力と技をみがきました。アメリカのみなさんの暖かな声援と協力を得ながら……。

クラブ紹介



函館大学ハンドボール部は、昭和五十四年に創部。その年の全道学生ハンドボール春季リーグに出場しました。そしていきなり、二部リーグ優勝。秋季リーグでは一部リーグに昇格し、そこでも準優勝という、まさにいきなり登場した強豪チームでした。

喜美夫監督（助教授）です。「創部当時は、部員も一・二年生が中心、ハンドボール経験者はわずか」という状態。それでは、創部二年目での春季秋季完全制覇は、松監督の厳しい指導のたまものでしょう。

昭和六十二年の春季より、全道リーグでは無敗を誇り、現在百三十連勝を続けています。全国大会では、東日本学生選手権でベスト8、インカレでベスト16入りが最高。もちろん、さらにその上をめざして練習が続いています。

現在、全道学生ハンドボールリーグ百三十連勝中
二十六シーズン（十三年間）道内では負け知らず



▲全日本学生選抜候補となり、全日本チーム入りをめざす外口智久くん（2年・九州学院高校出身）。

外口智久くん
全日本学生選抜候補に
来年、ポルトガルで行われる「世界学生ハンドボール選手権」に出場するための学生選抜候補

に選ばれた外口智久くん（二年・九州学院高校出身）。実は、夏に選抜候補に選ばれながら、練習中にケガをし自ら辞退していました。しかし、現在はケガも回復し、十一月初旬に函館で行われたインカレでの活躍次第では、再び選抜候補に選ばれることも可能。「そうになったらウレシイですが、まずはチームが勝つことが優先」と言います。

外口くんは、中学・高校とハンドボールを経験し、函大に入

学。「ハンドボールに対する熱意で、いろいろなことを犠牲にしてやってきて、松先生のものと自分自身を追い込み集中できるようになりました。冬の選考合宿では、ライバル達との間に勝ち残る自信はあるので頑張りたいです」。外口くんは今後の目標を聞くと「僕のいる間に全国ベスト8の壁を破り、胸の日の丸を自分で勝ち取る。卒業後は、体力の続く限り続けたいです。実業団へは、今、決めている所に行きたいと思っています」と言いながら、先のことも、日々の練習に精いっぱい打ち込んでいる様子が伝わってきました。



▶松喜美夫監督（助教授）。函大有斗高校、日大卒。日大時代は、全日本学生選抜に選ばれ得点王となる。社会人になってからは、全国大会準優勝2回。全日本学生選抜チームの監督やコーチとして、世界大会、国際試合を数多く経験しています。



学友会 だより



テーマは「火」。 全員が燃えた函大祭。

寒い風が吹く中も、今年のテーマ「火」にふさわしく、模擬店、学生ライブなどで盛り上がった一日間！

十月十七日・十八日の両日、第34回函館大学大祭・函大祭が行われました。あいにくの寒風が吹く大荒れの天気に見舞われたが、函大生の若さ溢れる熱気で終始、二日間の日程を終えました。今年のテーマは「火」。神がもたらした「火」の誕生は、人間の生きる姿を変え、火の素晴らしさと荘厳さ、そして強さを人間に教えました。学祭ではその「火」への思いと感謝を込めてテーマとしました。第33回のテーマは「かけ橋」。その中で「人類と自然との共存」を唱え、過去から現在、そして未来へ、絶望から希望へと立ち上がる人間に夢を託し「可能というかけ橋」を描きましたが、今年は「火」を与えられたあの人間のように、力強く地に足を据え、出発という原点に立ち、天を駆けてほしいと願いました。



テーマに託す大学祭実行委員会・学友会の面々の鼓動が聞こえてきます。時間を忘れ没頭

した準備アラカルト、パンク寸前の気持ちを押しさながらの綱渡り、人と人の間に架ける橋の難しさを実感しながらも、朝になり、そこには見事な協力という橋が架かっていた。そして、皆の笑顔がいっぱいありました。

「いらっしやい。美味しいよ。豚汁はどうですか。」あれ、今年是不況なのか、有料だよ。無料を期待してたのに残念だな。おじちゃんのような言葉が飛び出す光景も微笑ましい。

一五〇〇円の新品ロングコートを買った、思わずニッコリ、喜々としてさっそうと羽織るご婦人。市価の半額のジューズを全部手に入れたおばちゃん等々、フリーマーケットは大盛況でした。

寒さにめげずのわが焼き鳥屋・タコいっぱいを叫ぶタコ焼き屋、風に飛ばされながら頑張る綿あめ屋、冷たいジューズは売れませんでした、皆が頑張った模擬店でした。



野外でのドラム・エレキギターのハードな響き。ボーカルの体からほとばしる声、GLAYもきつとこんなスタートかなと思いつつ黄色い声援の

元気に若さを感じる軽音ライブの「コマ」でした。

感動のエピソードは 元X JAPANのTOSH-LIVE

二日目は、期待し、待ちに待った「TOSH H-I・LIVE・in 函大」。一九八九年メジャーデビューし、数々の伝説を残し解散したX JAPAN、そのボーカルであったTOSH-Iを迎えてのLIVEでした。CD、テレビの中のTOSH-Iが目玉に。そのことが親近感を、TOSH-Iとの間に音楽を通して共通の橋が架かりました。人と人が音楽という「間」で結ばれるシーンはいいものです。今年はこの素晴らしいLIVEの感動でエピソードを迎えました。この感動が明日のためのエネルギーになるといいですね。



今年のテーマ「火」によって原点に立ち、心をついにした学祭のエピソードは、惜しまれながら無事終了しました。学友会・大学祭実行委員会の皆さん、どうもご苦労様でした。

函館大学内に 郵便局が開局



北海道内の大学としては珍しい、大学内の郵便局が十月四日に開局しました。郵便の発送はもちろんですが、既存のキャッシュサービスも郵便貯金の取り扱いも可能になり、学生・職員はますます便利になりますと喜んでいます。

受検生をはじめ、函館大学を訪れた人は、記念にここでハガキや手紙を投函し、函館大学の消印が押された郵便を出してみたいかがでしょう。

また、郵便局の開局より先に、エコーはがき（広告付きハガキ）に函館大学が登場（売価四五十円・写真。合計二十五万枚が発行され、北海道内のほか、青森、秋田、新潟、名古屋の各市で、それぞれ五万枚ずつ販売されています。どこかで見かけたときには、ぜひ利用してください。



公開講座 案内



平成十一年度公開講座のご案内

●公開講座実施委員長・助教授 田部井 英夫

「地域に開かれた大学」を目指し、本学は関係機関や野又学園各校のご協力を賜わりながら、これまで多種多様な公開講座を開催してきました。公開講座開設以来、すでに十三年目を迎えております。開設十五周年を目指し、公開講座実施委員会一同、生涯学習に対する地域社会のニーズに対応すべく、いっそう精励努力したいと思っております。



平成十一年度の活動

今年度から、従来の北海道新聞への広告掲載、チラシ、立て看板、野又学園関連連校への支援要請に加え、NHKの「ほっからんど」、函館市文化・スポーツ振興財団月刊情報誌「ステップアップ」の「市民文化情報」、FMいるか、函館市教育委員会の「まなびとニュース」の情報媒体源を活用し、より広域な案内情報システムを確立しました。

去る七月九日と十日の両日にわたり、宮崎正孝先生のご講演がありました。テーマは「スペンサーの『要請の国の女王』とアリストテレスの哲学について」でした。中世と先生独自の哲学とロマンの世界へ誘ってくれました。

九月四日には、「異文化講座」が開かれ本学の専任講師ハーディー先生が母国アボリジニ先住民の歴史・文化を講演してくれました。



十月十七日には、一般市民を対象とした「落語高座」が開かれ、林家一門の林家源平師匠と林家しん平師匠が古典落語の「茶の湯」と「試し酒」を披露し、会場は笑いの渦に包まれました。

平成十一年度すでに開催されました公開講座と参加者数は次の通りです。

●郷土の歴史・文化講座（七月三日）

北方歴史資料館館長 高田 嘉七氏
一一〇名

●英文学講座（七月九・十日）

本学教授 宮崎 正孝先生 二五名

●異文化講座（九月四日）

本学専任講師 スコット・ハーディー先生 八〇名

●落語高座（十月十七日） 林家一門

林家源平師匠・林家しん平師匠 八〇名



以上の四講座の他に、十一月以降、次の講座が開催されました。ワイド入門講座は、二月に開講の予定です。

- 文化講演会（十一月六日）
テーマ「人生の美学」
三輪 明宏氏「生きやすい生き方」
四八〇名
- 一般教養講座（十一月十三日）
テーマ「日本的経営の進化と国際化」
本学教授 大江田 清志先生
- ウィンドウズ入門講座（十一月三・四日）
本学助教授 若松 裕之先生
- インターネット入門講座（十二月十三日・十四日）
本学助教授 津金 孝行先生
- ワイド入門講座（平成十二年 月予定）
本学専任講師 佐藤 義博先生

教養講座・健康講座

今回は本学の特徴の一つである企業人講師から、まさに「今」のお話を紹介する「教養講座」を載せました。

教養講座

「刑事司法と経済・社会との関わりについて」

講師 函館地方検察庁 検事 高橋久志

平成九年度から「経済刑法」の講座を担当しています。

講義に当たっては、商法、会社制度、簿記会計等との関わりにも常に留意するように心がけています。

また、実務家としての経験を生かすべく、できるだけ生の事件を採り上げるようにしています。

ところで、最近の拓銀の破綻に伴う特別背任事件、さらに、遡って振り返れば、住専に関する刑事責任追及、バブル経済華やかりしころの脱税事件における脱税額の巨額化等に象徴的に現れているように、刑事司法も、経済・社会の動きを敏感に反映するものであると言えそうです。

また、いわゆる国際化、グローバル化は、犯罪捜査の場面でも

様々な影響を及ぼしつつあります。

さらに、金融ビッグバンを始めとする規制緩和の流れは、行政による事前規制型から司法による事後審査型への動きを強め、刑事司法の役割の比重も、ますます大きくなることが予想されます。

しかし、一方、総会屋への利益供与や暴力団員による企業恐喝等の事件が端的に示しているように、多少巧妙さを加えながらも、本質は変わらない、古典的な犯罪が決して絶えることがないのも事実です。

ゆえに、刑事司法は、したがって、検察官も、その両面に対応する必要があると思われる、検察官である私としては、情報収集に努めてこのような経済・社会の動きを

できるだけ敏感に把握しつつ、他方、従来から行ってきた捜査・裁判活動についても、善良な一般市民の方々の信頼に応えるべく、地道に努力を続けていきたいと考えています。

そして、検事のやりがいと誇りが、被害者の感謝と被疑者の真摯な悔悟にあるという原点は、いつの時代にも変わらないように思います。



窓 話題の窓

不登校といじめの現在

教授 鈴木正義



平成四年に文部省は、不登校は「どの子どもにも起こりうる」という公式的な見解を示した。たしかに、子どもをめぐる環境の変化によって、不登校は特定の子どもに特有な問題ではなくなってきた。十年ほど前は、登校したいのにできない葛藤に苦しむ神経症型が多かったが、最近五年近くは、元気を失った無気力型が最も多くみられるようになった。諸種の調査によれば、心と体に疲れを感じ、精神的エネルギーが減退したり、友人関係に問題をもつなどして、競争原理が働く学校場面に漠然とした回避感情をもつ子どもが少なからずみられる。また、学校が教育を行う唯一の場であることに疑問をもつ考え方も、社会の底流にある。加えて少子化のなかで、家庭における自律性の育成が不十分であることも、今日一般にみられる風潮である。何らかの強い契機があれば、不登校は起こりかねないものである。不登校を自己防衛的な内閉状態として理解し、カウンセリングや社会的ス

キルの指導などが必要とされている。不登校を引き起こす契機の一つにいじめがある。現在のいじめは、いじめられる者といじめられる者という単純な関係ではなく、児童期・思春期の仲間関係の特質を背景にして、学級全体を巻き込んだ多層構造を成している。いじめは加害者、被害者、観衆、傍観者の四層間で展開されている。いじめの特徴は、教師の目に見えにくく、加害者と被害者の入れ替わりがあり、善し悪しと関係なく平均から離れた特徴をもつ者が対象とされ、歯止めとしての仲裁者がほとんど現れないことである。現在、いじめは減少しているが深刻化しており、非行・犯罪との境界があいまいとなり混合して発生している。いじめに対しては、学校の全教職員が共通した方針と情報を持ち、連携協力して対応することが不可欠である。不登校やいじめ、また学級崩壊など教育が抱える問題の研究集団として、今回、南北海道教育臨床研究会が関係する専門家により設立され、活動が開始された。

心つれづれ

人間革命・自己改革と日常生活

函館大学学長 河村 博 氏

「年賀状」「名刺」「日記」、そして「住所録」と「名刺ファイルブック」。

「正月に年賀状を一、〇〇〇枚を毎年受け取り、住所録も丹念に訂正する人物となって、人間もはじめて「一人前」の由です。

「名刺は一〇、〇〇〇枚交換して受け取り、丹念に日時・場所などをメモをしてファイルする人。これで、「一人前の人物」の由です。

「日記は三年間継続して書けば人間も変り、十年間継続して書けば、一角（ひとかど）の人物となる」とのこと。

但し、この日記は日々の行事や出来事だけの記録では会社や事務所の「業務日誌」です。これだけの日誌でも大変な忍耐力と根気が必要です。しかし、これは一流の金融機関の営業マンが毎日記入して上司に提出している日誌や業務報告書と同類です。

但し、この点も一流企業と三流企業との差の一つかも知れませんが。

しかし、この他に、一日の反省、一週間一ヶ月、一年間の反省と明日一日、来週一週間、来月一ヶ月、来年一年間の計画。自分の行動の習慣や癖（くせ）の長所短所、例えば過食過飲の食習慣、友人知人や家族との無駄話での時間の浪費浪費の習慣、衝動的な買い物をする習慣、見栄や虚栄による買い物や言動の習慣、こういう行動の習慣や癖の自己認識と自己評価、そして反省と改善点を文字で文章化して書く。

読書をする時間の少ないこと、軽薄な娯楽雑誌やスポーツ雑誌や週刊誌に傾斜した読書習慣のあること。こういう読書の習慣も正直に記録する日記。そして反省し、改善すべき点を書く日記。電話はするが手紙やハガキは書

かないこと。書くとしても書く内容に困ること。思考し、想像している脳内（心の内）が複雑で他人に知られたくないこと。ひがみ、妬（ねた）み、恨みの心を強く潜在させていること。金銭欲、名誉欲、地位欲、権力欲という欲望に心を乱され易いこと。自分の生活信条、人生目標、人生観が不安定なこと。こういう生活習慣や思考、想像の習慣や癖も正直に誠実に書く日記。そして、反省し、改善することを誓う日記。実践できず失敗をくり返すことも正直に書く日記。そして、正直に誠実に日々自分なりに最善を尽す。

こういう日記を毎晩毎夜書く。そして三年、五年、十年と継続する。こうすれば、天や宇宙の中の地球、地球の中の日本、日本の中の一時期の生物としての人間の中の一人としての自分の存在。そして、その存在の短い一生の使命や責任も自覚できる。そして、今日一日、明日一日の反省と改善と実践すべきことも自然に自覚できて、自然に自ら実行できる自分となるのかも知れません。

宇宙の摂理や原則原理、神や祖先の啓示や指示に自然に無意識に適合し、自ら服従して生きる結果となり、抵抗感もストレス

も皆無の日々となるのかも知れません。動物的・野獸的な俗欲の悪魔に心乱されることも少なく、神や祖先の指示や汚れなき純粋な理性や良心に敬服・服従して心安らかに快適な日々となる。ここまでの心境や思考・想像の習慣、生活・行動の習慣を獲得・定着させるには、十年間の正直な記録、心の記録も含めての誠実な記録としての日記の記入を必要とするのかも知れません。

なお、さらに、習慣や癖の改善に成功した後の自分の姿を脳内にイメージする。その成功から次の成功へと成功のシナリオを脳内に描く。これらのことも日記に文字で文章として書く日記が十年間継続する。細部のほんの少しずつの改善が十年間継続する。改善に失敗した事実も幾度も幾度も記入する日記となるのかも知れません。

そして、成功者の伝記の読破と自己反省の記録としての日記となる夜も多くなるのかも知れません。



函館ビジネスアカデミー専門学校

函館市田家町8番2号 ☎ (0138) 43-7700 (代)



▲「かんたんホームページ」講座で自分の写真やイラストを取り込みホームページづくりを学ぶ小学生たち

日頃は、十八歳から二十歳の学生で埋まる教室も、この日は奨学生とのお母さんたちで埋まりました。

函館ビジネスアカデミー専門学校は、今年度の文部省チャイルドスクール事業の認定校に

土曜日は子供たちのパソコン教室
文部省チャイルドスクール事業の認定校に

平成十四年度から小中高校が完全土曜休校になるのに先駆け、既存の専門学校施設の設備・教員等を活用し、小中高校たちにさまざまな学習の機会を与えようとする試みです。

函館ビジネスアカデミー専門学校では、この事業の一環として「かんたんホームページ講座」を開講。小中高校生が、ホームページづくりに挑戦しました。

同校の熊谷慎一校長は「小学校でもパソコン教育がこれから本格化していく中、インターネットの活用もその一部として学ぶことは大切なことだと思います。それにしても、この講座に参加している子供たちは、全員がパソコンに慣れているのでビックリしました。ローマ字入力もできるんですから」と驚きの様子。

実際、参加した小学生の数名に話を聞くと、全員が「家にパソコンがあるので、ゲームや絵を描いたりして遊んでいます。自分のホームページを作ってみました。子供たちの作ったホームページは、同校のホームページで見ることが出来ます。」

こうした試みに対し熊谷校長は「これまで専門学校に求められていた、職業人育成の役割が広がり、地域の学習の場としての役割も大きくなる。また同校では、昨年からシルバークリスタルセンターの要請により、六十歳以上を対象にしたパソコン教室も夏・冬休みに開講しています。『子供たちやお年寄りたちに教えること』によって、逆に我々も新しい発見や刺激があります。これを本校本来の教育にも生かしていきたい」と言います。



函館ビジネスアカデミー専門学校

■設置学科

情報通信科（工業系2年制）
情報処理科（商業実務系2年制）
OAビジネス科（商業実務系1年制）
ホテル観光科（商業実務系2年制）
〈ホームページアドレス〉
<http://www.hakodate-ba.ac.jp/>



割も大きくなる。また同校では、昨年からシルバークリスタルセンターの要請により、六十歳以上を対象にしたパソコン教室も夏・冬休みに開講しています。『子供たちやお年寄りたちに教えること』によって、逆に我々も新しい発見や刺激があります。これを本校本来の教育にも生かしていきたい」と言います。

大槻食材株式会社 創業半世紀を超えた 道内トップクラスの業務用食材会社



平成十年に創業五十周年を迎えた大槻食材株式会社。業務用食材の問屋として、北海道ではトップクラスの業務用食材といます。現在、函館・札幌店があり、函館の地で創業した企業です。

業務用食材というのは、ホテル、レストランをはじめとする外食産業、そして学校給食、病院給食等で使用する食材です。大槻食材（株）では、学校給食が急速に普及しはじめた昭和三十年代の後半、昭和三十八年から道南地区の学校給食用食材も納入しています。さらに札幌が大都市化するに伴い、外食産業も発展。それに合わせるように、昭和五十年に札幌への進出を果たしました。

大槻食材（株）の経営理念は、創業者の大槻輝彦氏が掲げた

一、正しい商いをする

一、お客様、仕入先様を大切にすること

一、社員を大切にすること

この理念通りに「お客様・仕入先様あつての会社。当社は黒子の存在」という姿勢を一貫しています。また「社員を大切にすること」という社風の元、函大卒業生も多数採用され、卒業生の全員が「満足度の高い会社」と口を揃えます。

大槻食材株式会社

- 函館店／函館市東雲町7番11号
- 札幌店／札幌市中央区北9条西21丁目
- 創業 昭和23年4月
- 会社設立 昭和30年4月
- 資本金 4800万円、自己資本25億円（平成11年11月現在）
- 代表取締役 吉田 正造

「これからはどんなビジネスでも、広い視野で流通を見て、的確な流れを作れる人材が求められます。これからの若い人たちの、新しい発想を社会で役立てて欲しい」との言葉をいただきました。

「これからはどんなビジネスでも、広い視野で流通を見て、的確な流れを作れる人材が求められます。これからの若い人たちの、新しい発想を社会で役立てて欲しい」との言葉をいただきました。



本社3F厨房でのイタリア料理研究会



札幌店



キャロット中の島店